

《令和3年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
グループホーム連絡会

開催日：令和3年8月18日（水）

時 間：13:30～14:30

場 所：阿南市役所 204 会議室

目 的：同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。
在宅医療・介護に関わる業種ごとに開催し、同業種間の意見交換を通じた資源の把握、課題の抽出等を行う。

参加者：12名

グループホーム青葉園	：管理者	明田 房子
グループホーム阿南向日葵	：管理者	清楽 智子
グループホーム笑顔毎日	：管理者	井出 主樹
グループホーム双壽園	：管理者	家形 英俊
グループホームなかがわ苑	：管理者	木下 富美子
グループホーム花乃苑	：管理者	若木 美恵子
グループホーム那賀川たんぽぽ	：計画作成担当者	森本 りえ
地域共生推進課	：課長	日下 浩之
地域共生推進課	：主査	松崎 由美
地域共生推進課	：事務主任	織原 裕希
介護保険課	：主事	福島 康人
医療・介護連携支援センター	：センター長	湯浅 祐司

(1)挨拶：阿南市地域共生推進課 日下浩之課長

(2)本会について事務局からの説明

同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。
また、在宅医療・介護に関わる業種ごとに開催し、同業種間の意見交換を通じた資源の把握、課題の抽出等を行うことが目的。

(3)自己紹介

(4)意見交換

◆令和3年度介護保険制度改正に伴う事業所の取り組み

・認知症介護基礎研修受講の義務付け

⇒全事業所、受講計画済みで事業所によっては全職員修了している。

- ・外部評価に係る運営推進会議の活用
⇒今年度より、運営推進会議において第三者の観点から外部評価を受けることが可能になった。県社協による外部評価と運営推進会議を活用する事業所に別れている。
- ・科学的介護推進体制加算
⇒加算取得事業所は2事業所。LIFE 入力に尽力しているが、今後は義務付けとなることを想定し対応を目指していく。

◆施設悩みごと

- ・入居者の重度化に伴い嚥下能力が低下しているが対応方法は？
⇒安易にトロミを使用せずに嚥下外来等を受診して改善を行っている。
⇒医療と介護の連携として食形態等の情報提供シートの改善が必要ではないか。施設で対応できる対応食の項目の追記等の検討をしたい。
- ・病院受診について、事業所の経営体系にもよるが基本は家族受診。しかし、新型コロナウイルス感染症により面会を自粛しているのに病院受診は良いのかとの家族よりの声がある。どのように対応しているか？
⇒病院受診は命に関わることであり、主治医と相談をしてできるだけ受診頻度を少なくして対応をしている。
⇒面会を玄関の窓越しで行って、接触は避けて対応しているが面会はしている。
- ・コロナ禍での行事はどのようにしているか？
⇒納涼祭等へ新型コロナウイルス感染症対策を徹底して家族には参加して頂き、その他の外部の方にはご遠慮して貰っている。
⇒新型コロナウイルス感染症を鑑みて面会は禁止して、入居者のみで雰囲気作り等を行い実施している。
※面会等を含め、外部の方との接触をしているのは現段階では参加施設の半数である。
⇒高齢者の方は土を弄るのが好きなので畑で野菜を育てたりしている。
※職員が大変ではという問いに職員は入居者の笑顔の為に頑張ってくれているし、近隣の住民の協力をして頂いて、良い関係づくりができているとの回答があった。

(5)組織運営について

阿南市内のグループホーム部会を立ち上げに賛同して頂き、令和3年度の部会長として笑顔毎日の井出主樹管理者が推薦により決定。

今後は、グループホーム部会を積極的に活用してより良い関係の構築をして運営に反映させていく。

【総評】

コロナ禍でなかなか会うことができない、名前は知っているが顔が分からない職員が直接会ってコミュニケーションを図ることで連携ができ、入居者や地域住民の皆様が住み慣れた事業所で長く継続できるよう、専門性を高める良い連絡会となった。

医療と介護の連携で、嚥下能力の低下に伴う研修や情報提供をフィードバックして活用をして頂く。

連絡や情報交換はメール等を活用してスムーズな連携に繋げる体制で部会運営を行っていく提案をしたところ参加者よりの賛同を得られることができた。

今後も感染症対策等を徹底し、顔の見える関係づくりで、強固たる連携構築を目指す。

【連絡会風景】



報告者:センター長 湯浅 祐司